

1) 植物群落保護林 加治川ブナ・ユキツバキ

営林局は「飯豊山周辺森林生態系保全地域」として広大な面積を保護地に指定したが、その中には「ユキツバキ群落」が含まれていない。飯豊山は日本海側の代表的な自然が残された地域であり、特に新潟県側の山麓には、ブナ・ユキツバキ群落のすぐれた状態のところがあるが、その群落の分布域をほとんど含んでいない。いうなれば、日本海側の代表的な森林群落が含まれていない「森林生態系保全地域」として指定されている。つまり、ほぼ海拔1,000m以上の地域に限られていて、「森林」としてのイメージでないところが指定の対象地になっている。飯豊山の雪国の森林を代表する地域を含めて「飯豊山周辺森林生態系保全地域」として指定することを強く要求したが、当時の状況では、その主張に賛同が得られずにブナ・ユキツバキ群落を含めずに指定地域が決定した。理由は地域の改変計画が既に提示され、それに抵触する地域を含めることが難しいとの判断であったように思う。いまでもブナ・ユキツバキ群落を「飯豊山周辺森林生態系保全地域」に含め得なかった、当時の委員の一人として残念に思い、その重要性の説得ができなかったことに後悔している。

しかしながら、私の主張に営林局としては全く理解を示さない訳ではなく、別件の配慮をして、ブナ・ユキツバキ群落の一部を保全することで一応の決着を得た。

ブナ・ユキツバキ群落は、この「飯豊山周辺森林生態系保全地域」に隣接して加治川流域にあり、その地域を保護対象地にするよう提案した。その結果、「植物群落保護林 加治川ブナ・ユキツバキ」の名称で生態系保存地域と切り離して別件の保護対象として認めて頂いた経緯がある。この地域をあえて指定して頂いた意味は、松ノ木穴沢と四郎左エ門沢との間にユキツバキの分布限界があり、加治川下流の松ノ木穴沢には生育するが、上流の四郎左エ門沢には分布がみられない。その分布の限界の要因を探る手掛かりが、この地域に得られる可能性があると感じたからである。分布の要因を追求するために将来に残しておく意義が大きいと感じたからである。以上のような経過で飯豊山系にて、一応公的機関でブナ・ユキツバキ群落の保全(平成7年1月指定)に理解が得られたことになっている。具体的な指定地の位置については、地図(前頁)に示す。

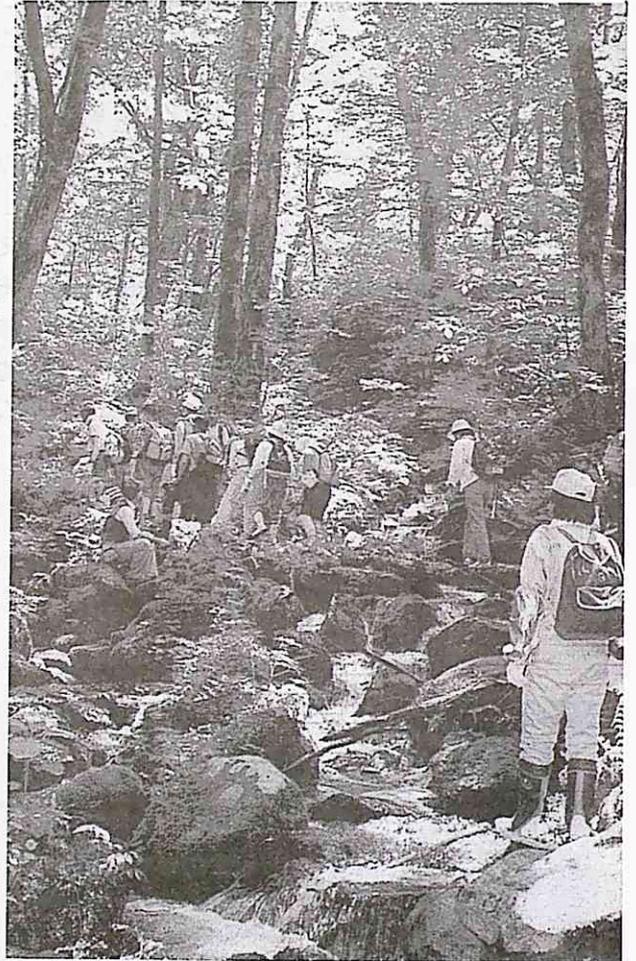
しかしながら、より良好なブナ・ユキツバキ群落が胎内川流域にもあり、ダム建設に伴って保護のための指定地域となっていない。ダム建設に伴ってその群落の保全に配慮するようお願いしてあるが、その後の状況をみていないので、はっきりしていない。すぐれた群落が残っている地域があるはずであり、保全する方向で今後も見守って行くことに理解を求めたい。

2) 郷土の森 菅名岳のブナ林

菅名岳のブナ林の保護に関連しては、1986年に端を発し(詳細は本誌1号「日尊倉山・菅名岳ブナ林に関する情報」参

1993年(平成5年)6月3日(木曜日)

新潟日報(夕刊)



沢沿いに胸腹清水を目ざす参加者。木漏れ日が心地よく、最高の森林浴だ

五泉・菅名岳

緑・清流「宝」だね

「郷土の森」構想 市民らが視察

五泉市は東部の菅名岳加、市民が中心に菅名岳(九〇九・二〇)の国有林の中腹にある胸腹清水(一)を三十年間固く無償で借り受け、菅名岳の森として整備、市民の憩いの場とする計画だが、このほど市民ら約七十人が予定地を現地視察した。

菅名岳は樹齢三百年以上といふトチノキやカツラ、そしてブナの原生林が手つかずのまま残り、まさに五泉市の宝(林)と市長が、現地視察が行われた先月二十九日は、朝からかなりと晴れ上がり、絶好の登山日和。視察には林市長も参

人も多く、ユーゴーと音を立てて流れ落ちるさまに歓声が上がった。参加者らはその音を聞きながら、ブナやカツラの木の葉が日差しを和らげてくれる。沢にある石はひびひびとコケに覆われ、歴史を感じさせる。透明な水、まはゆい若葉、木漏れ日。息をのむ美しさだ。

胸腹清水は岩壁からわきだしていた。初めて訪れた

菅名岳の森
すしき
五月廿二日

照)、多くの方々の声が、営林局に対してブナ林の保護を要望することでもりあがった。特に、地元で組織された「菅名岳を守る会(会長坂口一郎氏)」の昭和62年から平成5年に渡る活動の結果、最終的には、平成5年5月27日に五泉市との協定が成立し、平成35年5月まで「郷土の森」として保存することに決着した。この地域も「ブナーユキツバキの群落」が広く分布している。新潟市から日帰り、その自然林が観察できることから、多くの人々が訪れている。国有林の管理が営林局にまかせられていたが、このころを境に営林局が森林の管理にあたって住民の意向に注目するようになって、国有林の管理ありかたに方向転換の端緒がみえてきたように感じている。

[新潟県における指定地域]

県内でブナーユキツバキ群落を主な目的で指定している地域は少なく、その群落を含んで指定している場合がほとんどである。

- 1) 県の自然環境あるいは緑地環境保全地域のブナーユキツバキ群落
 - 岩船郡朝日村明神岩
 - 北蒲原郡安田町宝珠山
 - 長岡市定正院
 - 中魚沼郡川西町長安寺
 - 西頸城郡能生町鉦ヶ岳
 - 西頸城郡青海町黒姫山(マイコミ平)
- 2) 県の文化財保護地域のブナーユキツバキ群落
 - 東蒲原郡鹿瀬町・津川町麒麟山
 - 三島郡出雲崎町小木ノ城山
 - 西蒲原郡分水町国上山(ただしユキバタツバキの群落)

3) 県立自然公園

二王子岳、五頭連峰など指定地され、その地域内にブナーユキツバキ群落が分布する。しかし、その規模や種構成については、一様ではない。ブナーユキツバキ群落の広がりなど再調査が必要である。

4) 新潟のすぐれた自然

各地のすぐれた自然を調査し、県の報告書が出版されており、その中にもブナーユキツバキ群落を含んでいる箇所が多くある。しかし、掲載された箇所がすべて保全されるという保障がない。

[市町村における指定地域]

加茂市加茂青海神社境内のようにユキツバキを大切に保存する努力をしているが、自然の群落中に人工的に植え込むような作業を行っている面もあるようで、自然の群落の保全の観点からは再考を要する。

市町村でブナーユキツバキ群落を積極的に保護しているケースを確認していない。各市町村にあるブナーユキツバキ群落を人手を加えずに保護する市民運動が起こることを願っている。もし具体的な取り組みの実態があるようでしたら、情報の提供をお願いしたい。

[その他]

森林公園としてユキツバキ群落の保護

森林公園の中でユキツバキが保護されている場合、多くは上層の樹木と下層のツバキを残している。したがって、自然林のブナーユキツバキ群落の保護に該当しない。

鹿瀬町赤崎山、松之山町大源寺原牧場付近、津南町山伏山などでその実態をみている。これら以外でユキツバキを守っているケースがあるならば、是非とも情報提供をお願いしたい。

表紙裏の植物解説

シロバナウツボグサ *Prunella vulgaris* L.
subsp. *asiatica* Hara f. *albiflora* Nakai

シロバナウツボグサをはじめて現地で見したのは、両津市北小浦である。株の一部を新潟市に持ち帰り、植えていたところ、種子が実って沢山の個体が育ったので、出雲崎大釜谷にも移植したところ、庭の至る所で繁茂している。

最近古い文献を見ていたら、白花のウツボグサは、古くから記録されており、具体的には次のところで採集されている。

武州(埼玉県)戸原:大久保三郎採集[植物学雑誌 第1巻第6号:131, 1887]

志州(三重県)鳥羽日和山から佐田の浜:梅村甚太郎採集[植物学雑誌 第2巻第20号:204, 1888]